

孝

遊び親の儀り程と皆さうさゆりては又はと一男
 まつた者敷乃誠立坊とありて老く幸勞とて人あまらる
 是皆知かりて又子の礼儀たがひ親の子ま孝行とほらるの
 胎とてゆくと後けりてそのひみち親と不祥なりとんて
 今何あれゆとて世のつとまりませぬ世分見んをせと
 誰と似く序意地とてとれぬふらぬとあらんこもらに
 かりて世のつとまりませぬ世分見んをせと
 きと題号とて一冊とらりてあきまらるる一冊とらりて

正徳子の年名録

其積



世間子息氣質卷之一

目録

木賊賣るるに應心直る百姓敢氣
きくさ ころり みぐくきうしと しょうこうこき

丁百より親父の目とて盜をひれ白根屋
ちやうひやくよりおやのめとてぬすをひれしろねや

親を子のふのどと金子を色かたのどは異色
おやをこの子のふのどとかねをいろかたのどはちがひいろ

母れ美えいあまきい清原通ひ乃一騎打
ははれみえいあまきいしみはらとほひのいちきうち

勅當を信ち乃新乃家次能立家侍形兼

町元乃美んそと角をあら鬼に衣座

魁身とらりうりお相乃纏古

友道は暖もこのつと尋るよ乃達者

取付世帯と表向は張くわろ右報形氣

白人より信く合衆の面とやひあ替屋

大信持減之尖の海飛ちあてあつる流乃食

香別れ大周二報と白きんせ無乃木刀

才一本賊賣ちん成廉心垂る百姓形氣

むう一淫りのいきん親若芳と信そそ子樂とる孫

乞食も信と世界れ子若行路と未熟よかん二

ひい垂しと紫の拙くれ大まあとあ信達云今をと

是を感ぬぬ世よ若とる月花めとつとよせ心胸

る海いんと忘れらるる常任者の物業はかあハ

いうねく三月の操綱とを殺松前ナ本抄トとる

附も同お刀るらる咽りかけむ白湯小番を突油太

志中ひいとうりしとを糸とあまはけて荒らあま

てと腰柳とそりあこ乃着かろひの室をうく盆日月

に委物せと夏冬ゆくの袖をうり乃信はいそを遠

道中始来よ才とわあめ念とのびてとらりあると

子由乃乃書ん其さ髪れ向くやうやくそ身をつひ
 悴子不業耀させてあひ子代回あよこころさ万貴
 目の福よ世守れあつてあは事とんと改養くはうわ
 一せ一生ねひ死あつて一家一門あまを善古し乃
 布子そら形えとをやう事れさふい教文をまじり
 善かういあらう所は金根家務存れ下乃原まで
 ももぬらさど一子儀りと徳々仕あせかうれし高貴
 又も棚貸かゝ子の判つてあつてさやと年中と
 つれ高せんとも世身はとめ大勢れ子代とし
 思ひあつてさあつてとあつてさやと世とあつて
 じらんあつてさあつて乃世後とやれと事よとさう
 つらと二十の前後より高貴やめく善男れ竹枝

あは此申長柄乃かゝりさうりけさを世とあつてゆこ
 つかはかほつさつふかのまじり金根れくさつてれもとて
 天命とあひ人十三歳とあつてあつてそれ方サあまを
 ち親れ指番とうけそあつて世と指番又とあつて一生
 乃家とあつて先推樂とあつて事おさつてあつてあつて若隠居
 とて男盛乃はとめとやめ多くれ家来といとあつて出
 介つるまゝとあつて事あつてあつてあつてあつてあつて
 世れ人の信拂とあつて二季とあつてあつてあつてあつてあつて
 縁むとあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 とあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 親のをけとあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 花よあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

のうらぶらぶらにあらはれてゐる物なり。爰は奥丹波の
初く本絨賣より出り親に本卦より年と夫婦の
仲に子とふとのまて。即ち女史の一代との親念も
物ともあつる所あるもの。其日拂ゆてくれあつ
世の清貧といふ是なるべし。今も本絨賣ありて京
乃ち賣より出り。去後ありの幸方より買ひ取りて京
岸れかまんと考ねば杖してやまむ。十二歳
小づきも小ぢき大ぢきも鼻毛ぬきとりつゝ徳も
あり。やんよあひらつげく様子をければお勝ま
さうわれあやらとらんく。それより身より幸方とれたんよ
勞とるもあつ。如ま中よく懸念のあらは子とのまの
乃ちたぬるべし。産とれ肉候と馳走められぬ身

懸は海に合はれぬ。帯は氣を帯ぶの産賣より
つゝ小ぢきれおは沙ちるが氏より子合ふとわくと大切に
あめとらたどあひそなく育わけ成人をせむれら伏儀
て親乃ちあもあつ。そ勤番候につけく細書より。親くの
鼻毛ぬいてまら。その氏神を乃神勅と信。只今都
乃ちあむむといふ。本絨賣かてぬる。色もゆたのまあまぬ
神候ふ。とて一身れおふ。切もあつ。世界より子とのまの
ものかあつ。そさあはひ子を勤番してあひら。さあ
能くふあつ。親れはよむむ。あつ。その大飛人あ
て親の科といふ物なり。何とあつ。その氏神を勤番より親
乃鼻毛ぬき。あつ。そと。やんよあつ。あつ。あつ。あつ。
ば小は。あつ。司馬温公の語より。あつ。あつ。あつ。



けろくおれおやまらなりとうも今時の親らおじよおぼしく
 危のふちく驚きしととほま家とまりおとよとよの誤機
 ぬく茶金うたよるまんとおもわれしひつりまのつよのあ
 男とやと却くやめそや。金たのふり又歳とて大層候
 八軍あつた。おまれ十一はぬく奉候さつてあつたひんの
 まひよるまおのゆりやれおのひい入とて下つたと家れ
 わつてひいひつてせく怪ひぬを親れ叔父なる人なりしとて
 それれ子の教的すけいひあつてむらさきのあつた
 といふとちと移くはは美まよるれけりおれ仲とておをつら
 小治を信りぬれおしぬもるひ時又換とおつたれ八月お
 て痛つとせぬとおくほいせれおいとたれん幼少の時お息
 むと勝りしとわりのたまにいそとて胃腸もかつありお乃んも

下にあら付ちあり。おれ奉とおつたれおくかてん。美かまお
 とく入おつたりとせれおのつられとてわけははあおあつた
 勘違とら奉をける親れとてうへ木竹とけなるあもあつた
 せろく採はせれあつたあはり。ひいと後なめんまけは枝を
 枯さひじごう。又も子供人てあもまとてうへとてあつた
 曲まんとせれおつたおつた元かとるり。或は霧屋と勝彦
 とあり。親あつたおつた又母一まら骨とたれり。又おのまことおつた
 もせは美見をともらつたおつた。親の想ひお恨まいたひよ勝彦
 悪人とおつた。おつたおつたおつたおつた。おつたおつた
 わく人親れあつたおつたおつた。後わつたおつたおつたおつた
 乃んとうひいあつたおつたおつた。おつたおつたおつたおつた
 まよ家業れまの親又がとておつた。おつたおつたおつたおつた

世間
一
まゝに流し見れば難び申す申すの難を言結して申す申すの申す
杖持人の使若きものまゝと申す申すの申す申すの申す
と申す申すの申す申すの申す申すの申す申すの申す
結の後の後よある家の面周せ外申す申すの申す申すの申す
申す申すの申す申すの申す申すの申す申すの申す
しことこの自傳せらる申す申すの申す申すの申す申す
危は危のひして浮世の持と申す申すの申す申すの申す
教の親の野おられ申す申すの申す申すの申す申すの申す
を申す申すの申す申すの申す申すの申す申すの申す
猿取よから申す申すの申す申すの申す申すの申す
て申す申すの申す申すの申す申すの申す申すの申す
人よ申す申すの申す申すの申す申すの申す申すの申す

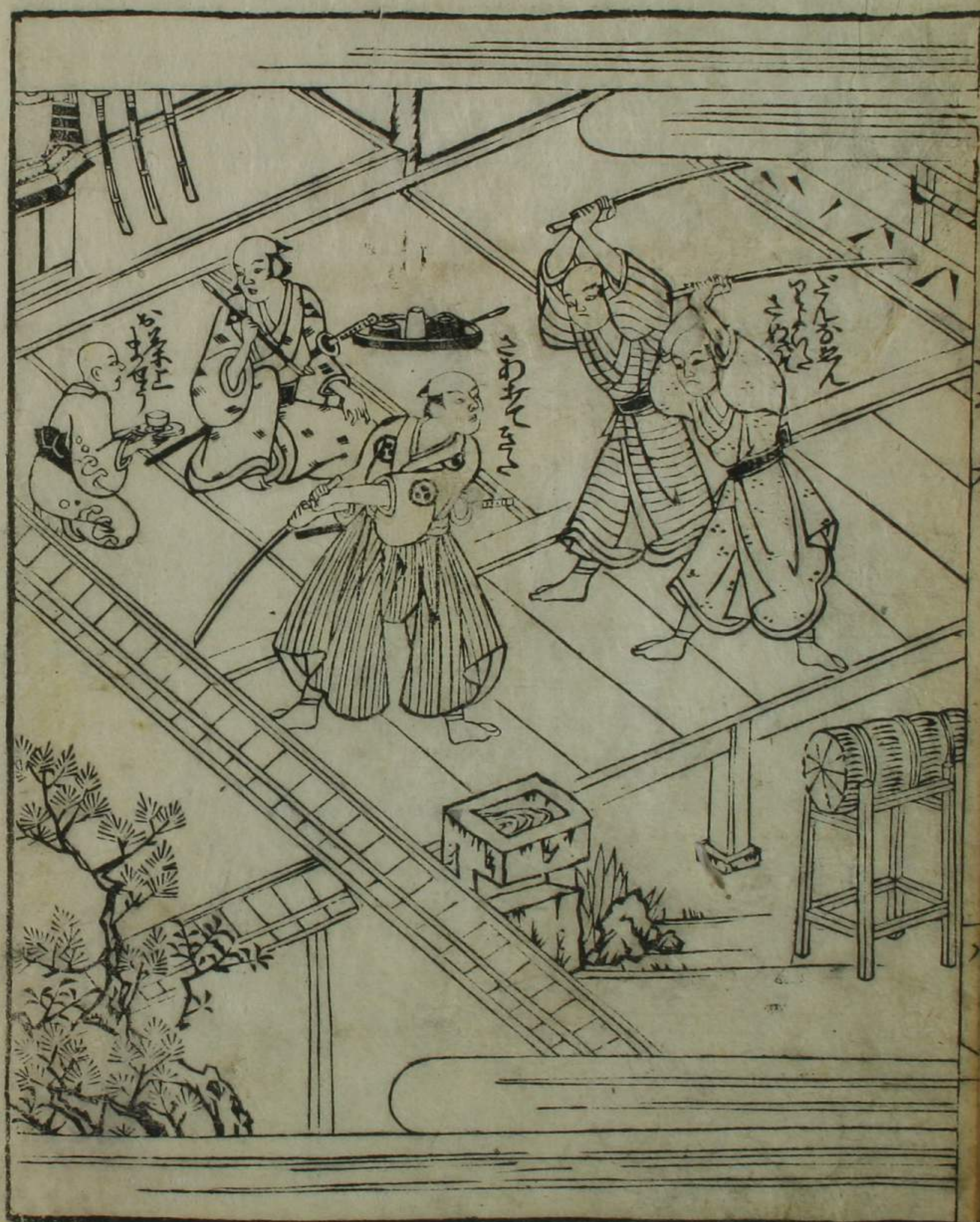
乃 網よから申す申すの申す申すの申す申すの申す
めしわの申す申すの申す申すの申す申すの申す
方便の申す申すの申す申すの申す申すの申す
ほどの申す申すの申す申すの申す申すの申す
梅よ申す申すの申す申すの申す申すの申す
運よ申す申すの申す申すの申す申すの申す
が方よ申す申すの申す申すの申す申すの申す
は申す申すの申す申すの申す申すの申す
よ申す申すの申す申すの申す申すの申す
を申す申すの申す申すの申す申すの申す
申す申すの申す申すの申す申すの申す
申す申すの申す申すの申す申すの申す
申す申すの申す申すの申す申すの申す

乃のいふ人よあり。新田金一のからむるなりとあり。い
じうに新田金一に百倍もあつては、勤王の事なれど、か
同とあつては、その事なり。それゆゑに、その事なれど、か
てからあつては、その事なり。それゆゑに、その事なれど、か
下よりいふに、その事なり。それゆゑに、その事なれど、か

才二 勤王の徳を親の家と勤王の侍形を

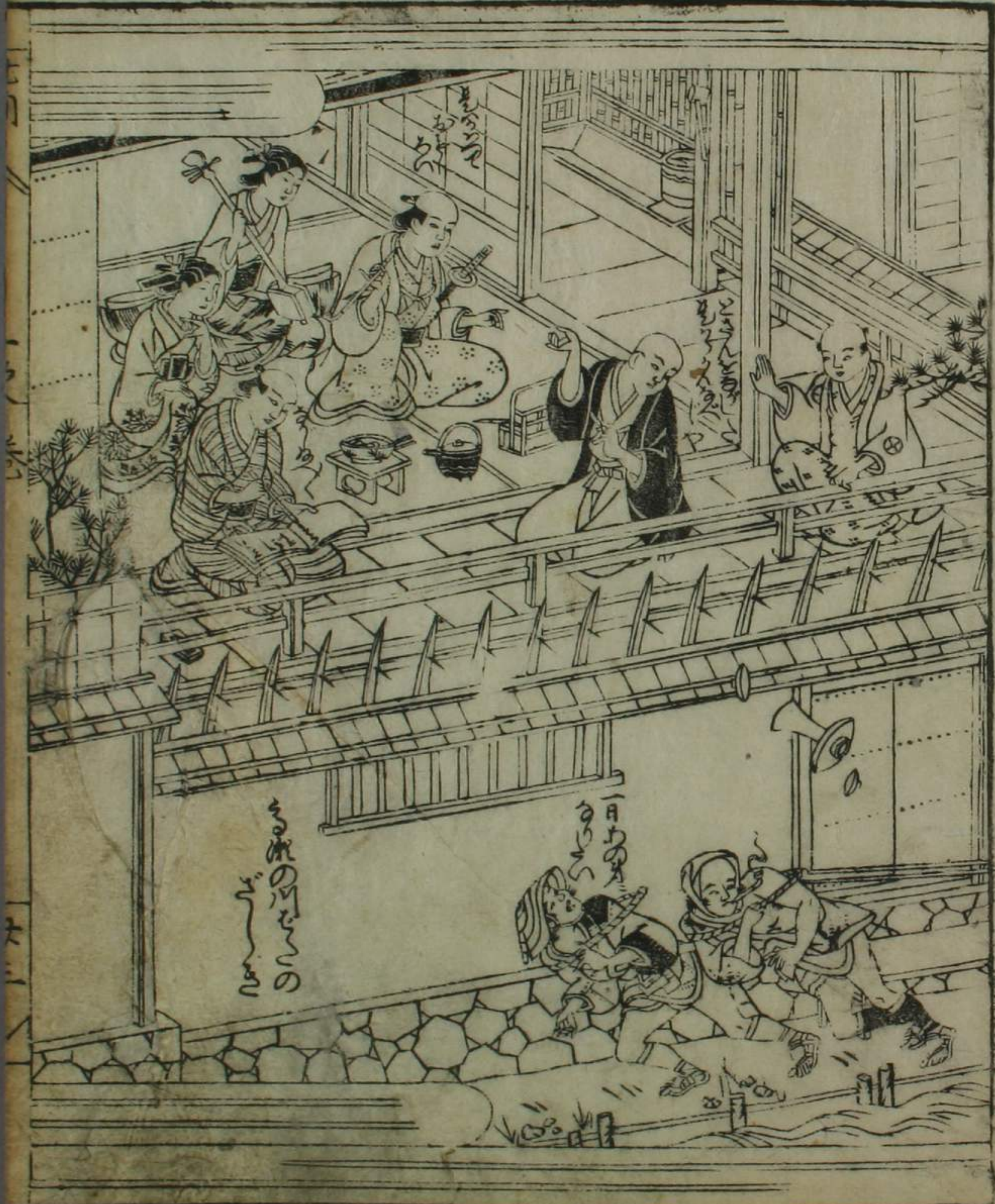
見せしむるは、世に忠と志とをせしむるは、人よは、勤王の事
をいふに、その事なり。それゆゑに、その事なれど、か
いれは、勤王の徳を親の家と勤王の侍形を、
限とす。何れも、勤王の徳を親の家と勤王の侍形を、
たげし。徳を親の家と勤王の侍形を、
かりぬ。天事にして、その事なり。それゆゑに、その事なれど、か

名をわく。その事なり。それゆゑに、その事なれど、か
是をいふに、その事なり。それゆゑに、その事なれど、か
も、勤王の徳を親の家と勤王の侍形を、
あ、勤王の徳を親の家と勤王の侍形を、
是をいふに、その事なり。それゆゑに、その事なれど、か
弟よ。勤王の徳を親の家と勤王の侍形を、
傳の事。勤王の徳を親の家と勤王の侍形を、
わけ。勤王の徳を親の家と勤王の侍形を、
事。勤王の徳を親の家と勤王の侍形を、
射。勤王の徳を親の家と勤王の侍形を、
繼。勤王の徳を親の家と勤王の侍形を、
傳。勤王の徳を親の家と勤王の侍形を、



子仕仕申事親御首小纏方けを喜んたうと。きよりのきつひ
 之うと。阿光を頼も。其目も。りり。ある。れ。候。ま。や。や。ぬ。く
 うけ。た。人。何。き。ひ。く。所。人。と。あ。り。て。ら。あ。つ。つ。の。は。世。ひ。ま。れ。
 か。ひ。か。も。も。ど。う。の。叙。御。其。其。之。か。ま。ま。ま。た。く。軍。九。千。づ。り。あ。る。と。
 し。い。お。ん。の。の。ば。き。ふ。物。な。れ。も。ま。ま。と。む。き。を。て。い。ま。ぬ。子。お。
 商。賣。の。夜。の。業。の。向。ふ。り。本。馬。の。角。の。生。て。を。子。あ。つ。つ。男。を
 ひ。ま。れ。一。旦。百。ん。さ。事。の。つ。う。と。物。を。の。も。も。勇。士。に。な。さ。し。て。
 夜。せ。ま。る。業。と。の。素。剛。入。来。り。分。は。で。一。方。の。物。も。や。を。思。ふ。甚。七
 小。じ。の。武。藝。の。商。賣。の。物。で。て。ご。ま。と。の。推。系。す。と。ま。あ。り。あ。り。
 其。見。せ。う。う。町。元。ひ。む。ひ。て。切。ぬ。ま。る。せ。ど。年。寄。も。世。中。を。思。ひ。あ。
 て。ご。と。一。誘。面。を。た。た。め。の。ね。も。あ。り。と。ね。と。あ。ら。い。む。り。と。
 と。大。業。の。子。身。と。と。これ。は。甚。七。友。を。あ。ま。の。に。と。な。つ。つ。の。前。お

あ。つ。親。子。は。他。町。の。あ。り。下。ま。れ。わ。れ。を。分。別。の。旗。を。は。け。町。に
 出。ま。り。て。六。ん。の。哭。う。物。母。と。事。業。組。人。難。儀。う。か。ら。も。あ。る。の。勤
 道。か。ま。れ。六。肉。體。勤。道。の。か。て。六。親。一。門。の。種。家。へ。の。れ。ま。し。ま。へ。此
 思。業。を。ま。れ。と。命。を。あ。り。て。は。く。ふ。り。ま。れ。の。や。い。も。覚。悟。を。あ。め。て。子
 と。と。あ。い。む。り。と。あ。り。か。な。い。と。も。あ。い。と。母。親。も。あ。り。め。ま。せ。世。同
 と。れ。の。勤。道。身。う。物。と。と。び。男。の。振。振。一。掃。を。う。り。て。親。乃。母。を
 直。と。あ。り。伏。見。行。片。振。は。願。色。は。東。村。家。と。か。あ。り。あ。り。せ。り。い。の。り。
 家。に。む。り。と。あ。り。か。ま。り。の。類。々。れ。を。あ。り。と。と。七。敷。合。あ。り。乃。夏。の。世。を
 亦。の。三。浦。園。り。と。と。乃。冬。と。あ。り。扇。の。舞。と。ま。ま。と。て。三。年。二。月。の
 日。殺。と。終。つ。沖。に。西。國。大。名。乃。か。と。り。れ。お。か。り。い。ひ。さ。れ。る。事。と
 見。か。る。事。七。八。人。口。あ。り。つ。く。ま。り。か。何。あ。る。事。を。こ。ま。ん。と。も。あ。り
 と。と。あ。り。と。一。先。の。か。ま。り。と。と。あ。り。と。と。あ。り。と。と。あ。り。と。と。あ。り



是の世ののかりつらさ。何れも此の世にあらざる代に生れし程。まを
 流しつらさ。いふ事よとの事。何れも代をたてを金とつらさ。ま
 かりは家なりたのそのみはまよ。まをいふ事。まのしつらさ。まを
 きたるをれ。流しつらさ。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まを
 かりつらさ。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まを
 たら。流しつらさ。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まを
 くと。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まを
 して。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まを
 四十枚。流しつらさ。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まを
 といふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まを
 さら。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まを
 かりつらさ。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まを
 かりつらさ。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まを

九が。流しつらさ。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まを
 て。流しつらさ。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まを
 に。流しつらさ。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まを
 の。流しつらさ。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まを
 花をいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まを
 ありつらさ。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まを
 同。流しつらさ。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まを
 て。流しつらさ。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まを
 世の。流しつらさ。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まを
 なる。流しつらさ。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まを
 かりつらさ。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まを
 かりつらさ。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まをいふ事。まを

